Schroders

ご参考資料
2024年2月

日本株式市場でいま起きていること Vol.6

市場見通し（2024年2月）と好調なインバウンド

日本株式市場見通し（2024年2月）

非常に強い日本株式

日本株式は2月に入っても非常に強い動きを見せており、日経平均株価は史上最高値を更新しました。インバウンド消費の強さから業績が好調な小売株が上がったりと、日ごとにテーマの移り変わりが早いのも足元の上昇相場の特徴の1つです。

急落リスクは要注意

短期的には利益確定売りによる急落リスクには注意が必要です。ヘッジファンドの動きなど、何かをきっかけに利食い売りに押されて急落する可能性は相応にあるとみておく必要があります。しかし、足元の日本株式の上昇は企業のファンダメンタルズ（経済の基礎的諸条件）に支えられていることも見逃せない事実です。企業業績は引き続き堅調であり、1月から2月にかけて発表された四半期決算は良好な結果となりました。ただし、2024年度の業績見通しについては強気の見方が増えているものの、先行き不透明感はあり、円高リスクもあります。

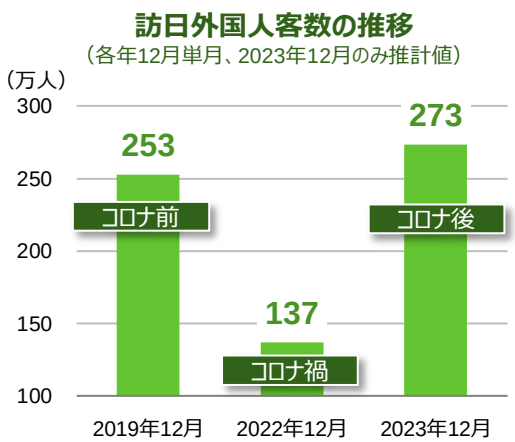
さらなる上昇余地期待

こうした変動性が高い市場環境の際には、基本に立ち返り、株価は企業業績とバリュエーション（投資尺度）で決まっていることを改めて考える必要があります。バブル期には往々にして、バリュエーションの議論が盛んになる傾向があります。足元では、各証券会社は業績見通しを引き上げ、また、想定するバリュエーションもやや寛容な水準を示しています。34年前のバブル期と比較すると、バリュエーション水準も違いますが、何より市場の構造、コーポレートガバナンス改革の進展は大きな違いです。最終的に企業が成長力や収益力を高める取り組みは、来年度の本決算に向けてさらに進展すると考えられ、日本株式にとって追い風になるとみています。

コロナ前の水準を超えたインバウンド

2023年12月の訪日外国人客数は、**コロナ後で過去最多**になりました。また、**12月の単月でも過去最高**を記録しています。消費行動にも変化が見られ、これまでの**「爆買い」から「コト消費」**を重視する傾向にシフトしています。

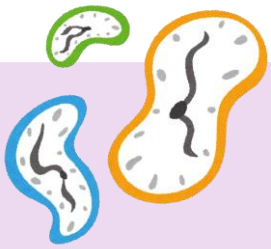
中でもアジア圏からの人気が高いのが青森県。SNSを通して、青森の魅力が拡散されたことに加え、青森・ソウル線の定期航空が運転再開されたことも一因のようです。2024年は**さらなるインバウンドの回復・拡大**が見込まれており、引き続き日本中のあちらこちらで訪日外国人の姿を見かけそうです。



出所：シュローダー、日本政府観光局（JNTO）のデータを基にシュローダー作成。※写真、イラストはイメージです。

本資料の運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
本資料に記載されているご注意等を必ずご覧ください。

市場見通し（2024年2月）と好調なインバウンド



50年前、日本では何が起きた？！
～1974年（昭和49年）の出来事～

Back to 1974
西新宿の象徴
「三角ビル」

当時の技術革新によって誕生した、200メートルを超える日本初の超高層ビル「新宿住友ビル」。そのユニークなデザインから「三角ビル」と呼ばれ、西新宿エリアの象徴として親しまれてきました。当時としては珍しい複合ビルであり、オフィスに加え、展望レストランやスポーツ・カルチャー施設、地下にはきらびやかな宝石店が軒を連ね、ビル全体が立体的なひとつの街としての機能を果たし、多くの人々が訪れる場所でした。昭和～平成～令和と3つの時代を駆け抜けてきた「三角ビル」ですが、近年では、設備の老朽化やにぎわいが薄れた空間が課題になっていました。

その後、建て替えをせずに大規模改修を行うという国内でも珍しい形で約3年をかけて工事を行い、2020年にリニューアルしました。最近では、老若男女が楽しめる様々なイベントも開催され、再び活気を取り戻しています。

シュローダー日本株式運用チーム
～日本に根ざして50年～

2024年はシュローダーが東京事務所を開設し
日本経済や日本株式の調査を開始してから50周年の節目にあたります。
これも一重に皆さまのご支援の賜物と感謝申し上げます。

50 Anniversary in JAPAN
革新は、さらに次へ

創業から200年超、日本に根ざして50年。
卓越した資産運用サービスをお届けするため、
私たちの視線が向かうのは、いつもひとつ先の未来。
今また新たな投資機会の発掘に向け、
シュローダーは動き出しています。

出所：各資料を基にシュローダー作成。※写真、イラストはイメージです。

本資料の運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
本資料に記載されているご注意等を必ずご覧ください。

日本株式市場でいま起きていること Vol.6

市場見通し（2024年2月）と好調なインバウンド

大好評コンテンツ
日本株運用者の視点

今、おさえておくべき
日本株式市場
のトピック

今回のトピックのキーワード

「基本に立ち返ることが肝要」

- 2024年に入り、さらなる盛り上がりを見せる日本株式ですが、背景には外国人投資家による日本株買いがあるとされています。しかし、この外国人投資家の日本株買いというのは、実態がよく分からないものでもあります。日経平均先物などが主導した急騰する相場を見ると、やはり短期的なマネーの動きが背景にあると想像されます。
- 過去の経験からみると、先物主導、大型株主導で急騰する、いわゆる流動性相場は長続きするものではないと考えます。足元では、極端な物色動向にあり、こうした極端な市場はどこかで修正されると考えるのが自然です。
- 私自身、ロンドンで業務を行う中、英国や欧州の顧客と対話をし、日本株式に対する見方は一様ではないと感じています。ロンドン本社のグローバル株式ファンドマネジャーも、日本企業は本当に変わったという認識は示すものの、まだまだエビデンスが足りないと指摘します。日本企業にはそうした懸念を払拭する結果を出し続けて欲しいですし、アクティブ運用としては市場の極端な動向に左右されず、企業業績とバリュエーションという基本に立ち返った投資行動が求められていると感じています。

【今回の執筆担当者】

荒井 卓（あらい たく）
日本株式運用　副責任者

副責任者として運用部のマネジメントを担うとともに、日本株式ビジネスを統括。千葉大学大学院経済学修士、一橋大学大学院国際企業戦略研究科MBA、慶應義塾大学経済学学士。
2011年8月、シュローダー入社。

上記の詳しい内容や
その他のトピックはこちら

ご注意等
本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を目的とするものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、弊社はその内容の正確性あるいは完全性について、これを保証するものではありません。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料中に個別銘柄についての言及がある場合は例示を目的とするものであり、当該個別銘柄等の購入、売却等いかなる投資推奨を目的とするものではありません。また当該銘柄の株価の上昇または下落等を示唆するものでもありません。本資料中に含まれる第三者機関提供のデータは、データ提供者の同意なく再製、抽出、あるいは使用することが禁じられている場合があります。第三者機関提供データはいかなる保証も提供いたしません。第三者提供データに関して、本資料の作成者あるいは提供者はいかなる責任を負うものではありません。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社　金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会